

1 単元名 人物の考え方や生き方をとらえよう 「わらぐつの中の神様」

2 単元の目標

- 物語のもつ温かさを感じ取りながら、心に残る言葉や文章、情景や場面を楽しんで登場人物の考え方や生き方、心の動きと通い合いに関心をもって作品を読むことができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- 「神様」という言葉に着目しながら、おみつさんと大工さんの言動や二人の話を聞いたマサエの変容から本当の価値や相手のことを思う真心を込めた生き方について自分の考えをもつことができる。
(読むこと)
- 会話文や行動の描写部分の叙述を手がかりにするとともに、作品に描かれているものと登場人物を関連づけたり構成のおもしろさに着目したりしながら読むことにより、登場人物の心の動きや考え方や生き方を読むことができる。
(読むこと)

3 指導上の立場 ～響き合いを成立させるために～

- (1) 児童について ～主に新たな自己との響き合いの充実に向けて～

削除しています。

- (2) 単元について ～主に学習材との響き合いの充実に向けて～

「わらぐつの神様」は、マサエがおばあちゃんの昔語りを聞いて、相手を思って真心を込めることを大切にしてきたおばあちゃんの生き方に触れ、変容するという心温まる物語である。

構成は額縁形式（現在→過去→現在）になっている。第一場面では、マサエは、おばあちゃんと全く違った考え方をもっていたが、第二場面では、おみつさんや大工さんのものの見方や考え方に触れ、自分の価値感が揺さぶられていく。そして、第三場面では、マサエが聞いたお話の主人公であるおみつさんが、実は目の前にいるおばあちゃんであり、大工さんはおじいちゃんだったということが分かる。このことにより、現在と過去が結びつき、おばあちゃんの話が遠い昔話ではなく自分の生活の身近なこととしてマサエの目と心を通して驚きと感動をもってとらえられる。

わらぐつや神様に対して「みったぐない」「そんなの迷信でしょ」と言っていたマサエが、不格好だが履く人の身になって丹精込めて編んだわらぐつを介して、本当に大切なものをしっかりととらえて心を通い合わせたおみつさんと大工さんの真摯な生き方・考え方が、見かけのかけこよさを重視するマサエの価値観を揺さぶり、変化をもたらしていく。児童は、マサエに自分を重ね、共感しながら読み進めていこう。登場人物の誠実さや心の通い合い、ものの真の価値を通して、児童一人ひとりも、自分自身のものの見方や考え方、生き方を深く考えることのできる教材である。

また、表現の上からみると、擬声語、擬態語、比喻、慣用句などを用いた的確で豊かな表現がちりばめられている。登場人物の心の動きや通い合いをとらえる上で、それらの言葉に立ち止まり、繰り返し読んだり、別の言葉で言い換えたりして、その言葉のもつ意味や響きをつかませ、情景や心情を豊かに想像して読ませていきたい。

本単元では、「人物の考え方や生き方をとらえよう」という単元のめあてをもって学習する。第一次では、初発の感想をもとに、登場人物の考え方や心の動きと通い合いに関心をもちながら、学習の見通しをもつ。第二次では、学習計画に従っておみつさんと大工さんの心の通い合いを各場面ごとに読み深めていく。その際、物語に描かれているものと登場人物、登場人物相互の関係、構成のおもしろさに気をつけて読み深めていきたい。第三次では、神様について考えることにより、作者の伝えたかったことやこの作品の温かさやよさを再認識し、人物の考え方や生き方について自分なりの考えをもつことを期待している。

(3) 支援の工夫 ～主に学習材、友達、児童と教師との響き合いの充実に向けて～

① 「つかむ」場での支援の工夫

- ・ 題名からどんな物語か想像させたり、わらぐつや神様についてのイメージを語らせたりすることで、学習への興味づけをする。
- ・ 全文を読み、挿絵をもとに、現在一過去一現在という段落構成、人物関係、あらすじについてとらえさせる。その後、心に残ったことや疑問に思ったことなどを書き、感想を交流し挿絵と対応して場面ごとに整理していくことで『『わらぐつの中の神様』に語られている神様を確かめよう』という単元のめあてをつかむことができるようにする。

② 「高める」場での支援の工夫

- ・ 第二次は、第一次で考えた学習計画に従って読み深めていく。その際、今までの学習や教科書のp24「たいせつ」を生かすことにより、会話や行動から登場人物の考え方や心の動き、人とのかかわり合いを読むことができるようにする。さらに、わらぐつの描写を詳しく読んでおみつさんの人柄と照らし合わせることにより、作品に書かれている「もの」の描写が人物の様子や心を映しだしていることに気づき、読み深めていくことができるようにする。
- ・ 自分の考えをもつ場では、文章としっかり対話することができるように、一人読みの時間を確保する。一人読みにおいては、どの言葉から考えたのか根拠を明らかにしながら読むように助言する。
- ・ 話し合い活動においては、まず、教師が児童の発言をきちんと受け止め、聞くことを重視する。児童に対しては、うなずいたり、相づちを打ったりと積極的に反応しながら聞くように促すことにより、話しやすい雰囲気を作る。また、お互いの考えを伝え合うときには、意見のつながりを考えて話すよう促すことにより、友達と学び合いながら学習を進めていくという意識を高める。
- ・ 必要に応じてペアトークや小グループでの話し合いを取り入れ、話し合いを活性化させる。

- ・ 学習の流れが分かり、話し合いを焦点化したり、深めたりするような板書を工夫する。
- ・ 教材文は、語りの中に擬声語、擬態語、比喩、慣用句、ダッシュ、色彩を表す語句などを多く使い、イメージを膨らませることができるようになっている。立ち止まって考えたい語句が児童の話し合いの中から出にくい場合には、必要に応じて教師が問いかけたり聞き返したりする。

③ 「まとめる」場での支援の工夫

- ・ 「わらぐつの中の神様」という題名に立ち返って神様の意味について話し合い、その後「わらぐつの中の神様」の感想を書く。神様がいるということはどういうことだったのかについて話し合うことで、おみつさんと大工さんの温かい心や真摯な生き方のすばらしさやマサエの心の変容から本当の価値について考えることができるようにする。
- ・ 友達と感想を読み合うことで、友達の考えに共感したり、自分の考えを深めたりすることができるようにする。

4 単元の構想（全10時間）

過程	次時	学 習 活 動	支 援 と 評 価
つ か む	一	① ○ 場面ごとに全文を通読して、初発の感想を書く。 ② ○ 感想をもとに話し合い、学習の見通しをもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「わらぐつの中の神様」を読んで、学習の見通しをもとう。</div> <p>○ 「神様」についてイメージを語らせることにより、学習への興味づけをする。</p> <p>○ 心に残る言葉や場面を見つけ、伝え合うことにより、読み深めたいことを整理することで、『わらぐつの中の神様』に語られている神様を確かめよう』という単元のめあてをつかませ、学習の見通しをもつことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>初発の感想を書いたり伝え合ったりする中で、登場人物の考え方や心の動きと通い合いに関心を持ち、学習の見通しをもつことができる。</p> <p style="text-align: center;">「関心・意欲・態度」(発言・ワークシート)</p> </div>
	二	① ○ わらぐつに対するおばあちゃんとマサエの見方の違いを読む。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">わらぐつのことをおばあちゃんとマサエはそれぞれどのように思っているのだろう。</div> <p>○ 「しんしんと」「カタカタと」などの言葉に着目しながら、まず、静かでくつろいだ温かなマサエの家の様子をとらえ、その後、めあてを確認するように</p>

高			<p>する。</p> <p>○ 会話文を音読して「なんて」「だって」「そんなの」などの言葉遣いに着目したり、「みったぐない」「真正銘、本当の話」などの言葉を対比したりすることにより、わらぐつに対する見方の違いを読み取ることができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>温かい家庭の雰囲気とわらぐつに対するおばあちゃんとマサエの価値観の違いを読み取ることができる。 「読むこと」(発言・ワークシート)</p> </div>
め	②	<p>○ 雪げたがほしくてたまらないおみつさんの心の高まりを読む。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>おみつさんの人柄と、雪げたがほしくてたまらないおみつさんの様子や気持ちを読もう。</p> </div> <p>○ まず、p 8, 10行目～13行目をもとにおみつさんの人柄についておおまかにとらえることができるようにする。</p> <p>○ おみつさんの行動に着目するとともに、雪げたについての描写は、おみつさんの目から見た表現であり、思いの表れであることに気をつけながら、心の高まりをとらえることができるようにする。</p> <p>○ 雪げたがほしいが、贅沢やわがままはできないと思うおみつさんの気持ちをつかむことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>働き者で気だてのよいおみつさんの人柄と、雪げたがほしくてたまらなくなっていく心の高まりを読み取ることができる。 「読むこと」(発言・ワークシート)</p> </div>
る	③	<p>○ わらぐつに込めたおみつさんの思いを読む。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>わらぐつを編むおみつさんの様子や気持ちを読もう。</p> </div> <p>○ 「～のように」と3回繰り返されていることに着目することにより、わらぐつをはく人のことを一生懸命に考えていることをとらえることができるようにする。</p> <p>○ おみつさんの作ったわらぐつはどんなわらぐつだったか確かめることにより、わらぐつの描写からお</p>

高			<p>みつさんの人柄が分かることに気づくことができるようにする。</p> <p>○ 「元気よく」「横目で見ると」などに着目することにより、一生懸命に編み上げたわらぐつだからこそ高まる気持ちとともに町に出かけたことを読み取ることができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>はく人のことを思って心を込めてわらぐつを編むおみつさんの様子や人柄を読み取ることができる。 「読むこと」(発言・ワークシート)</p> </div>
め	④	<p>○ 朝市でわらぐつを売っているときのおみつさんの心の動きと売れたときの喜びを読む。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>初めてわらぐつが売れたときのおみつさんの様子や気持ちを読もう。</p> </div> <p>○ 朝市でのお客さんたちの様子や大工さんの様子比べて読むことにより、両者の価値感の違いをとらえることができるようにする。また、「赤くなりながら、おずおずと」と結びつけることにより、自分のわらぐつの値打ちに気づかないおみつさんに気づくことができるようにする。</p> <p>○ 大工さんの「わらぐつを手にとると、たてにした横にしたりして・・・」をおさえることにより、次時につなぐことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>わらぐつがなかなか売れずにごっかりした気持ちが、大工さんが買ってくれたことでおがみたい気がするほどうれしい気持ちに変わったことを読み取ることができる。「読むこと」(発言・ワークシート)</p> </div>
る	⑤	<p>○ 大工さんの仕事に対する考え方とそれを聞くおみつさんの心の通い合いを読む。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大工さんの話を聞くおみつさんの様子や気持ちを読もう。</p> </div> <p>○ 「こっくりこっくりうなずきながら」に着目することにより、大工さんの仕事に対する考え方と、それに共感しているおみつさんの様子や気持ちを読み取ることができるようにする。その際、わらぐつを作っているときのおみつさんの思いと結びつけることにより、読み深めることができるようにする。</p> <p>○ おみつさんの白いほおがなぜ夕焼けのように赤く</p>

高			<p>なったのか問いかけることにより、恥ずかしさとうれしさでいっぱいのおみつさんの気持ちと二人の心がわらぐつによって通い合っていたことをとらえられるようにする。</p> <p>中身を大事にする大工さんとおみつさんの考え方が似ているからこそ、互いにひかれていったことをとらえることができる。</p> <p>「読むこと」(発言・ワークシート)</p>
め	⑥ (本時)	○ おばあちゃんの話の聞いた後のマサエの変容を読む。	<p>中身を大事にする大工さんとおみつさんの考え方が似ているからこそ、互いにひかれていったことをとらえることができる。</p> <p>「読むこと」(発言・ワークシート)</p> <p>○ 「どうして『この雪げたの中にも神様がいるかもしれないね』と言ったのか」と問いかけることにより、おばあちゃんの話のマサエが受け止め、相手を思って真心を込めることの大切さを感じ取ったことを読み取ることができるようにする。</p> <p>○ 「赤いつま皮の雪げたをかかえたまま」に着目し、「持つ」と比べることにより、おじいちゃんやおばあちゃんの心を大事に思い、大切に胸に抱きかかえている様子を想像する。そのことにより、「神様」という言葉でおばあちゃんが伝えようとしたことに気づいた喜びとマサエが二人と心を通わせていることをとらえられるようにする。</p> <p>「神様」という言葉でおばあちゃんが伝えようとしたことを受け止め、祖父母に対して心を通わせていくマサエの変容を読み取ることができる。</p> <p>「読むこと」(発言・ワークシート)</p>
る	⑦	○ 現在—過去—現在という構成によってどんな効果が生まれるか考える。	<p>第1場面と第3場面があることで、どんな効果が生まれるのだろう。</p> <p>○ 第2場面(過去)だけでも一つの話として完結することをおさえることにより、現在の場面を入れた作者の意図を考えたいという思いを高める。</p> <p>○ 今まで読み取ってきたことを振り返りながら、読み手を引きつける効果があるだけでなく、マサエの</p>

			<p>変容から、中身を見ることの大切さや心の通い合いのすばらしさがよく伝わってくることをとらえることができるようにする。</p> <p>現在一過去一現在という物語の構成の効果を理解することができる。</p> <p>「読むこと」(発言・ワークシート)</p>
まとめ	三 ①	○ 「神様」の意味について話し合い、「わらぐつの中の神様」を読んだ感想を書く。	<p>「神様」について話し合い、「わらぐつの中の神様」を読んで心に残ったことや考えたことを書こう。</p> <p>○ 児童が日頃思っている「神様」と「わらぐつの中の神様」を比べ、意見を交流することにより、真心を込めた生き方のすばらしさについて考えをもつことができるようにする。</p> <p>「神様」について話し合い、「わらぐつの中の神様」を読んで心に残ったことや考えたことを書くことができる。</p> <p>「読むこと」(ワークシート・発言)</p>

5 本時案 (第二次 第6時)

目標	<p>第一場面のマサエのわらぐつに対する見方と比べたり、第二場面のおみつさんがわらぐつを編む様子や大工さんの考え方など関連づけたりしながら、おばあちゃんが「神様」という言葉で伝えようとした、見せかけではない物事の本当の価値と外見にとらわれずそれを見きわめることの大切さに気づいて、祖父母に対して心を通わせていくマサエの変容を読み取ることができる。</p>	
過程	学 習 活 動	教 師 の 支 援 と 工 夫
つ か む	1 本時のめあてをつかむ。	○ おばあちゃんが話した「おみつさんと大工さんの話 (第二場面)」はどんな話だったか前時までの学習を想起したり、学習場面を音読してどんな場面かを確認したりすることにより、本時の学習のめあてにつなぐ。
	めあて	マサエの気持ちの変化について読み取ろう。
	2 めあてについて自分の考えをもつ。	○ 第一場面のおばあちゃんの話聞く前のマサエのわらぐつに対する見方「やだあ、わらぐつなんて、みったぐない。だれも・・・」「わらぐつの中に、神様だって。」「そんなの迷信でしょ。」ときめつけ、いやがり、おばあちゃんの「神様がいなさる」という考え方を信じていなかった

も つ		<p>たことやおじいちゃんを笑っていたことなどをおさえる。</p> <p>○ おばあちゃんの昔話は、第三場面の冒頭部分の大工さんの言葉まで続くことをおさえた後、本文にサイドラインを引いたり、ノートに書きまとめたりすることにより、マサエが「どのように」そして「どうして」変わったのか自分の考えをもつことができるようにする。</p> <p>○ 机間指導をしながら児童の読みの傾向を把握する。戸惑っている児童には、本文と一緒に音読したり、マサエの言動に着目して読むように助言したりする。</p>
高	3 マサエの気持ちの変化について話し合う。	<p>○ まず、二人組で考えを交流した後で、全体で話し合うようにする。そのことにより、どの児童も自分の考えを伝え、そして相手の考えを聞く場を確保し、自分の考えをより明確にして話し合うことができるようにする。</p> <p>○ 根拠となる言葉を明確にしながら発表するよう助言することで、叙述に即して考えていくことができるようにする。児童は、主に次の言葉にかかわりながらマサエの変容に迫っていくと予想される。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使う人の身になって、心を込めて作ったものには、神様が入っているのと同じこんだ。それを作った人も、神様とおんなじだ。 ・ 目をくりくりさせてきました。 ・ パチンと手をたたいて、目をかがやかせました。 ・ すぐふみ台を持ってきて、 ・ 「ふうん。だけど、おじいちゃんがおばあちゃんのために、せっせと働いて買ってくれたんだから、この雪げたの中にも、神様がいるかもしれないね。」 ・ 赤いつま皮の雪げたをかかえたまま、「おかえんなさあい。」とさげんで、げんかんへ飛び出していきました。 </div>
め		<p>○ 友達の意見との共通点や相違点を考えながら発言している児童やうなずくなど反応しながら聞いている児童を称揚することにより、自他の意見のつながりを意識できるようにし、学び合っていくという学習の雰囲気高める。</p> <p>○ 話し合いがそれたり、深まりが見られなくなったりした場合には、話題となっている言葉や文を音読することにより、常に文章を根拠に読み深めていくことができるようにする。</p> <p>○ 児童の発言を第一場面のマサエと対比できるように整理して板書することにより、マサエの変容をとらえることができるようにする。</p> <p>○ 「この雪げたの中にも神様がいるかもしれないね」に着目した発言が多くなると予想される。マサエが「雪げたにも」と言った理由やわらぐつと雪げたの共通点、相違点を考えることにより、マサエがおばあちゃんの話（心）を受け止め、相手を思って真心を込めること、誠実に一生懸命に働くことの大切さを感じとっていることを読み取ることができるようにする。尚、次の点に気をつけて読み深められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第三場面の冒頭部分や、第二場面のおみつさんがわらぐつを編む様
る		

高 め る		<p>子、大工さんの考え方（会話）などに関連づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 気づいた「神様」を確かめることにより、雪げたやわらぐつなどの「もの」だけでなく、「心」にも着目できるようにする。 音読することで話を聞く前のマサエの口調が、優しい口調に変化していることにも気づかせたい。 <p>○ 「赤いつま皮の雪げたをどのように抱えているか」を問いかけることにより、雪げたに込められたおじいちゃんの心やそれを大切にしてきたおばあちゃんの心を大事に思い、大切に胸に抱きかかえている様子を想像して、マサエが二人と心を通わせていることをとらえ、温かな雰囲気味わわせたい。また、「さけんで」「飛び出して」の言葉に着目することにより、おみつさんと大工さんが自分の祖父母の若いころだったという驚きと自分がおばあちゃんが伝えたかった「神様」が分かったという喜びだったと言うことを気づくことができるようにする。</p> <div data-bbox="518 750 1412 929" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「神様」という言葉でおばあちゃんが伝えようとしたことに気づいて受け止め、祖父母に対して心を通わせていくマサエの変容を読み取ることができる。 「読むこと」（ノート・発言）</p> </div>
	ま と め る	<p>4 本時のまとめをする。</p>
	<p>5 次時の活動について知る。</p>	<p>○ 初発の感想で、物語の構成が話題になったことに触れ、次時の学習について知らせる。</p>